



公民館を拠点とした人づくり・地域づくり

魅力ある住みよいまちづくりをめざして
日置地区公民館経営研究会

10月10日(水)、日置地区公民館経営研究会をいちき串木野市アクアホール多目的室で開催しました。開会行事で中木屋豊会長が「私たちの使命は、地域の和(輪)を大切にしましたまちづくりに取り組むことである。事例発表や講演を参考にして地域づくりに生かしてほしい。」とあいさつされました。事例発表は、れいめい羽島協議会の枇榔秋信会長が行いました。協議会は、自治部会、健康福祉部会等の8つの部会があり、青少年育成部会の「ふるさとれいめい塾」や婦人部会による高齢者向け調理教室「プラチ



事例発表の様子

ナクツキング」など特色ある活動を行っており、今後若者を受け入れる活動など、住みやすい生活環境づくりに取り組んでいきたいと発表しました。その後、始良市松原なぎさ校区コミュニティ協議会の追鳥嘉正会長が「公民館を拠点とした魅力ある地域づくり」と題して講演されました。追鳥会長は、「松原なぎさ校区は、新興団地だったが、少子高齢化が進み、一人暮らしの高齢者も増え、地域での見守りが必要になってきた。また、子供の支援も必要で、協議会で空き家を買取り、子ども食堂を開き、子供や高齢者が集まって交流し、心をつなげる場として提供している。今後、世代間の交流や地域の輪を広げ、誰もが安心・安全に暮らせる地域づくりを継続していきたい。」と語りました。

第40号
(発行)
日置地区
社会教育振興会
(事務局)
鹿児島
教育事務所

輝く子供たち 地域が育む
「かごしまの教育」 県民週間

県教育委員会では、11月1日～11月7日までの期間を「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」として設定しています。学校・家庭・地域社会が連携・協力して、教育の充実と発展を図るものです。地区内の小・中学校でも地域の方々に子供たちの学びの姿を見ていただくために、各学校で様々な行事を実施し、子供たちとの交流を深めました。

11月5日(月)には、県の訪問講座「維新の学びキャラバン」で、三反園訓知事が日置市立伊作小学校を訪問しました。学校の近くには、島津忠良(日新公)が生まれた伊作亀丸城があります。当日は、5・6年生が日新公が詠んだいろは歌のかるた大会を行いました。子供たちは、読み手の三反園知事の声に集中しながら素早く手を動かして、真剣にかるたを取り合っていました。



かるた大会の様子

日和下駄

「大丈夫! プラッチコウ!」

この言葉は、今年の24時間テレビのトライアスロンに出場したみやぞんの母親の口癖で「プラス思考」の短縮形とのこと。みやぞんがテストで0点をとって帰ってくると、「0点か、大丈夫! 元気で楽しく生きていけば、それだけでいいんだからね!」と励ましてくれたらしい。

私も3人の子供を育てましたが、テストで低い点数をもって帰ってきた時、子供に励ましの言葉をかける余裕などなかったし、子供のためと思って、厳しい口調で接していたように思います。

5人きょうだいのみやぞん家は、極貧生活で、誕生日には、山盛りのほうれん草のおひたしにローソクを立てケーキ代わりに喜んで食べたと話していました。機転を利かした母親の発想にも驚かされませんが、明るい家庭があったからこそ、今のみやぞんが育ったと言ってもいいと思います。

今、見直される家庭教育の重要性。プラス思考で前向きに子供と向き合っていけば、誰でもみやぞんのように明るく素敵な大人に育つてくれると思うのは、私だけでしょうか。日置市教育委員会

社会教育課長 梅北浩一

伊作太鼓踊奉納

日置市教育委員会

鹿児島県無形民俗文化財の伊作太鼓踊が、8月28日(火)・29日(水)に花熟里保存会により、吹上地域の南方神社で奉納され、奉納後は吹上地域各所で披露されました。伊作太鼓踊は、吹上地域内6保存会(花熟里・田尻・湯之元・入来

・中之里・和田)から構成され、毎年順番に奉納・披露されます。

伊作太鼓踊の由来はいくつかの説があります。一説では、応永13年(1406年)に伊作島津家4代当主久義が、田布施の牟礼ヶ城を攻略したことを祝って始まったと伝えられています。

太鼓踊は、唄方数人、中打4人、平打20人余りで行います。唄方は、踊りの進行と唄を担当します。中打は、小・中

学生在が花笠をかぶり、小太鼓と鉦を持ち、踊りのリズムをとります。平打は、白装束に2メートルほどの軍配型の矢旗を背負い、胸に太鼓を



伊作太鼓踊奉納の様子

つけます。花熟里保存会では、今年度多くの地域住民が伝統文化に触れ、伝承してもらうために、中打を8人、また平打に女性を配置し、披露しました。華麗な衣装の8人の中打が優雅に舞い、その周りを白装束の平打が太鼓を打ち鳴らし激しく踊り、地域の伝統芸能の保存に努めました。

日吉地域子ども会 スポーツ交流大会

日吉地域子ども会育成連絡会主催で7月22日(日)に、日吉運動公園において、約400人の参加により開催しました。

この大会は、各種スポーツ競技を通して異年齢集団による子ども会の集団づくり、他の子ども会との交流、また子ども会員・育成会員相互の親睦を図ることを目的に毎年夏休みに開催しています。

また、日吉地域子ども会育成連絡会発足当時(昭和47年)から子ども会球技大会としてスタートし、現在に至るまで、永年、子供たちに親し



キックベースボール

まれており、日吉地域の伝統ある行事の一つとなつていきます。今年行われた競技は、キックベースボール・ドッジビー・グラウンドゴルフ・ドッジボールの4種目。各種目では、単に子ども会同士の間対抗戦は行わず、参加者全員を旧小学校区ごとに振り分け、中学生をリーダーとするチーム編成で、交流試合を行いました。

普段馴染みのないグラウンドゴルフやドッジビー等の競技に悪戦苦闘しながらも、中学生が小学生に優しくアドバイスする姿が見られるなど、会員相互の親睦を深めることができたようです。また、育成会の方々には、準備や審判など側面から協力をいただきました。

快晴のもと、夏の暑さにも負けない子供たちの白熱した声や保護者・育成会の方々の声援と拍手、そして時には笑い声もあり、終始にぎやかな雰囲気の中で行われました。



ドッジビー



グラウンドゴルフ

みしまつ子探検隊

三島村教育委員会

8月26日(土)29日の3泊4日、硫黄島で「みしまつ子探検隊」を実施しました。三島村の小学5年生から中学3年生までの22名、県内の大学生や社会人・各地区子ども会育成会のスタッフ・体験活動の指導者など総勢約50名が参加。子供たちは3班に分かれ、硫黄岳で採れる硫黄を使った線香花火づくり、世界一周したヨット「海連」で体験航海、温泉の湧き出る海でカヌー体験、漁業体験で釣った魚でカレー魚拓&魚おろし等々、三島村の大自然を生かした活動を通して、あらためて自分たちの住む三島村のよさを感じることができました。また、ボランティアとして参じた大学生や社会人も、子供たちの支援をしながら、一緒に活動を楽しんでもらいました。

最後の解団式では、「三島の自然を生かした体験活動や他の学校の人とたくさん交流がきて楽しかった。」など、子供たちの絆も深まり、成長を感じさせる活動となりました。



漁業体験

アドベンチャー in いちき島

いちき串木野市教育委員会

8月7日から3泊4日の日程で「アドベンチャー in いちき島」事業を行いました。甕島の広大な自然の中で、宿泊研修を通して交流を深めると共に、様々な活動に挑戦し、自己を磨き豊かで力強い心を養うことを目的としています。

参加者は、小学生25名、中学生3名、ボランティア12名、事務局職員10名で、薩摩川内市上甕県民レクリエーション村を拠点として活動しました。

8月7日、1時間の船旅の後、灼熱の暑さの中、研修所までの11キロの道のりを2時間かけて自転車移動。2日目は、観光船クルージング体験と交流活動。3日目は、「長目の浜」まで往復10キロのサイクリング。夜には星空観察やキャンプファイヤーにも取り組みました。そして最終日は再び里港までの11キロを移動しました。今回は特に参加者は



サイクリングの様子

もちろん、スタッフまで含めて熱中症に注意しながら活動しました。研修期間中の朝食・夕食は自炊です。事前研修で決めた班ごとのメニューで食材の買い出しをして調理します。

米を炊くとき水の分量を間違えたり、食材を買い忘れたり、包丁は大人から見ると背筋が凍る様な使い方も見られました。日を重ねるうちに班で協力しながら調理をしていきました。そして、いつも何気なく食べている食事を作ってくれる親の大変さや苦勞、感謝の気持ちに分かったようです。

4日間、自転車での移動では坂道も多く、一生懸命ペダルを踏みました。また友達と寝食を共にしながら、小さな喧嘩はあったものの、声を掛け合いながら協力して活動ができました。事業を終え、参加者からは「自分の体力に自信がなかった」「友達と協力する事の大切さを知った」「保護者からは「率先して行動するようになった」等の感想がありました。様々な体験や感動を通して、変わるきっかけを作ることができました。



田之尻展望所で全体写真

いちき串木野市郷土史料集2 「金山編」発行に際して

本市は「人が輝き文化の薫る世界に拓かれたまち」をめざして市政を推進しております。

その一環として、市内に残る貴重な資料等を収集し、後世に残すとともに、郷土学習の資料として活用してもらうために郷土史料集の編さんに取り組んでおります。

平成27年に市制施行10周年を迎えるにあたり、「いちき串木野市郷土史料集1(民話・祭り編)」を発刊し、今回は2集目となります。

本市の串木野鉦山は、300年以上の歴史を持ち、全国でも4番目の金の産出量を誇ります。

調査は、市内外の専門家5名に依頼し、聞き取り調査をはじめ、三井串木野鉦山株式会社や市民の方々から貴重な資料を提供していただきました。また、鹿児島大学の福田栄治名誉教授にも玉稿を賜り、貴重な史料集となりました。

この史料集が広く活用され、ふるさとへの愛着とまちづくりに寄与すれば幸いです。



郷土史料集2「金山編」

宮鶴女

平島子ども会 十島村教育委員会

平島の盆踊りは、旧暦の7月7日から16日に行われます。踊りは、先祖代々古くから伝わる踊りで、「宮鶴女」と「小踊り」の二つに分かれています。

子ども会では、地域の大人に細かな指導を受け、毎年踊り手として参加します。宮鶴女は、10日間踊り、小踊りは、最後の3日間を子供たちと先生方が踊ります。

平島子ども会は、山海留学生の子供たちを含め、11名の小さな子ども会ですが、島の行事には、育ちや先生方と参加します。先生方も、一緒に練習して参加するので、とても楽しいです。

小踊りは、テラと呼ばれる広場↓平島神社↓トンチ(昔、平家の中心の一族が住んでいたと言われる場所)などを、踊りながら回る伝統的な行事です。地域の方々の声援を受けて島内を踊るのは自信になります。その他にリサイクル活動も行っています。



みんなを守る伝統芸能

ふるさとを興す保健・福祉学習大会及び

組織・教育・食料・環境学習大会

日置地区地域女性団体連絡協議会

8月24日(金)、いちき串木野市アクアホールで地区ふるさとを興す保健・福祉学習大会及び組織・教育・食料・環境学習大会が開催され、459人が学習しました。

開会に先立ち、日置地区の塩屋かよ子会長から、いちき串木野市の田畑誠一市長と県女性連の伊佐幸子会長に九州北部豪雨で被害に遭った地域への義援金が贈呈されました。



義援金を贈呈する塩屋会長(左)

大会前半では、県民総合保健センター桶谷薫所長が「いきいき健康講座」と題して、人生百年の時代の秘訣を話されました。①骨、関節、筋肉が衰えないように運動する(ロコモトレーニング)、②ポジティブな考えが認知症を防ぐ、楽あり苦もある人生が長生きする、

適度に負荷をかけて過ごすことが大切である、③健康なときこそ検診を受けて、人生百年時代を楽しく過ごしましょうと結ばれました。



桶谷薫所長の講演

後半のシンポジウムでは、「誰もが明るくいきて暮らせる環境づくりのために」というテーマで、健康・教育・組織の3つの部門の代表者が提言を行いました。健康部門は、いちき串木野市食生活改善推進協議会の満留昭子さんが、地域住民の健康な体づくりのための体操教室や高齢者が自分で料理を作り、みんなで楽しく食べるプラチナクッキングについて発表しました。教育部門は、いちき串木野市立生福小学校PTAの砂坂ふくよさんが、食育や早寝・早起き・朝ご飯、6090運動や親子読書運動、ノーマディア、家庭の日など、会員の資質向上や青少年の健全育成

等、PTAの取組について発表しました。

組織部門では、日置市東市来女性連の永井章子さんが東市来地域の取組を発表しました。明治31年東市来村の婦人部として始まった女性連は、今年で120年を迎えたこと、女性連の歩みを調べたこと、女性の集う場や学びの場の必要性を認識したこと、一度解散した女性連を再結成し、会員のための事業や防災、交通安全、ブックススタート、学校応援団等様々な社会貢献活動への取組について発表しました。



発表する登壇者

いずれの発表も自分たちの活動や地域の現状を把握し、今後の方向性を打ち出すなど、取組の成果が見られました。閉会式では、参加した会員が当日の成果を確認し、地域に持ち帰りました。今後とも地域に根ざした女性連の活動を継続し、充実した地域づくりの活動ができませんことを願っています。

おめでとうございませう
国・県・地区社会教育関係表彰

- 地区生涯学習推進大会で、次の個人・団体が表彰されました。心からお喜び申し上げます。※敬称略
- 地区社会教育振興会表彰(個人・団体)
- 酒匂 靖夫(日置市)
- 桑木野 二雄(日置市)
- 有馬 求(日置市)
- 橋口 正己(いちき串木野市)
- 古川 清行(いちき串木野市)
- 石神 齊也(いちき串木野市)
- 中区自治会ほうそう踊り保存会(日置市)
- 羽島青年学級(いちき串木野市)
- 大里虫追踊保存会(いちき串木野市)
- 川上踊保存会(いちき串木野市)
- 日本PTA全国協議会表彰
- 旭小学校PTA(いちき串木野市)
- 日本PTA全国協議会70周年特別表彰
- 佐藤 英隆(日置市)
- 池満 涉(日置市)
- 久保 和昭(日置市)
- 中野 留美子(いちき串木野市)

編集後記

平成も残り数か月となりました。今年も多く行事が開催されましたが、一部しか掲載できませんでした。今後も誌面の充実を努めて参ります。御協力ありがとうございました。

(事務局 三浦)